

「チェルノブイリ原子力発電所の放射能漏れ事故で被曝(ばくし)した子供たちには、治療のための医療器材を送らう」「日本ユニセフ協会秋田友の会」(佐々木正光代表)がカンパ活動を始めた。同会は九年前、ロシア共和国の難民にロマを「愛の一粒」運動を展開、大きな反響を呼んだ実績を持つ。今回は、白ロシア共和国血友病協会からの市民レベルの援助要請にこたえて取り組むもので、同会メンバーは「おのれの精神を磨く」と、心の通がら「支援」を呼び

チェルノブイリ被曝児に医療器材送ろう

「チェルノブイリ原子力発電所の放射能漏れ事故で被曝(ばくし)した子供たちには、治療のための医療器材を送らう」「日本ユニセフ協会秋田友の会」(佐々木正光代表)がカンパ活動を始めた。同会は九年前、ロシア共和国の難民にロマを「愛の一粒」運動を展開、大きな反響を呼んだ実績を持つ。今回は、白ロシア共和国血友病協会からの市民レベルの援助要請にこたえて取り組むもので、同会メンバーは「おのれの精神を磨く」と、心の通がら「支援」を呼び

日本ユニセフ協会秋田友の会がカンパ活動

分らない状況「と」。同会は昭和五十七年から四年間、県内各地の小・中学校などで救済米の配布活動を展開、七百八十六袋四千七百六十斤、もの秋田米をソマリア共和国に送り、今回はこの時の精神を引き継ぐ意味で「愛の一粒」運動として「おのれの精神を磨く」と、器材購入費用の募金活動を呼びかけている。運動期間は五月十一日(水)まで、問い合わせ先は北西部北町刈野二五〇(佐々木代表)内、電話は〇一〇七・七〇・〇〇〇〇。

1991年(平成3年)2月14日

チェルノブイリの被災者救援に力を

秋田友の会が募金

日本ユニセフ協会秋田友の会(佐々木正光代表)は、ソ連・チェルノブイリ原子力発電所事故で、後遺症の血友病に悩まされてい

る被災者救援に力を貸す。同会は、白ロシア共和国に送られた血友病協会からの、東京に住む日本人学生を通じて援助要請があった。それによると、現在、同共和国には三百七十五人の血友病患者がいて、そのうち十九人は十五歳以下の子ども。近代医療設備不足で治療も十分でなく、今後の患者は増える見通しだ。

No. 74



発行所 東京都中央区区地5丁目3番2号郵便番号104-11
朝日新聞東京本社
電話03-3545-0131
郵便振替口座 東京0-1730
©朝日新聞東京本社 1991